

令和8年度 第1回 宇部市地域自立支援協議会 会議録

日時 令和8年5月29日（金）18：30～19:40
場所 宇部市役所本庁舎棟 3階 会議室3－3
出席者 委員17名（欠席者1名）、市9名

1 報告

（1）宇部市障害福祉プランに係る実績報告（資料2、3）

ア 第五次宇部市障害者福祉計画の基本目標に係る実績報告

■意見および質疑応答

特になし

イ 第7期宇部市障害福祉計画及び第3期宇部市障害児福祉計画（サービス計画）に係る実績報告

■意見および質疑応答

特になし

（2）専門部会報告（資料4）

■意見および質疑応答

委員） 部会の報告は次回の会議でさせていただくが、今年度は、こども支援部会でも強度行動障害の子供に関する支援について深めていく方向性を決めている。相談支援部会とも連携しながら進めていきたい。

委員） 強度行動障害の子供や大人の行き場や支援がないということが、各専門部会で共通の課題であがっている。相談支援部会では保護者の支援をしていくこと、こども支援部会でもどうにかしないと話が出ているが、専門家が集まっても答えが出ないような難しさがある。市も支援者も動いていない訳ではないと思う。

事務局） 今回は議題には上げていないが、今年度中には施策化に向けた議題を提案できればと思っている。

委員） 総合支援学校の実習に行って充実した日々を送る自閉症の人もいるけれど、息子の場合は学校生活から実習の切り換えが難しく、2か所目で強度行動障害が出て、夜自宅からいなくなり、週3回家の前にパトカーが来るような状況であった。

両親が寝られない状態なので、相談支援員がショートステイの手配をしてくれたが、そこでも1時間か2時間後に施設からいなくなり隣市で見つかるという恐ろしい状況になった。強度行動障害の家族は毎日が本当に大変なので、ぜひスポットを当ててほしいと思う。

2 議事

(1) ときわスクエアにおける障害者就労への要望について（資料5）

■意見および質疑応答

- 委員） 法人内に就労の事業所が3拠点あるので、市の新しい施設に障害のある方々の働く場を提供していただけると、利用者の皆さんも喜ばれる。それが工賃に繋がるとなおいと思う。ぜひ実現させてほしい。
- 委員） 働く場所は必要なので、いろいろな業務を積極的に増やしてほしい。いろいろなことができる方がいらっしゃるので、どんどん可能性を伸ばしてほしいと思う。
- 委員） 体を動かして作業するのもよいが、施設に障害者の絵や作品を展示するのもよいのでは。障害者の作品にもいいものがあるから、販売できるかわからないけど、飾る場があったらよい。
- 委員） 子供たちが交流したりする場所なので、障害のある人が働いているところを見せる場所にもなると思う。インクルーシブな都市を目指しているから、子供たちに障害のある人たちへの理解を深めるような場所でもあってほしい。
- 障害のある人の働く場を広げる、プラス子供たちに地域社会の中で障害のある人も一緒に生活していて、障害者理解の教育という面もあるとよい。そういうことを盛り込んでほしい。
- 委員） この施設が障害者理解の場ということが見えるような活動ができると思う。日頃、障害のある方が就労されるときに、どんな仕事をしたいか尋ねると、掃除や外で汗をかく仕事は苦手と言われる方も多いので、できれば掃除とかではなく何か新しい仕事が生み出されたらいいと提案させていただきたい。今から先、そういうことができたらいいいと思った。
- 委員） 小さいときに障害福祉サービスの受給者証をもらうと、この子の将来はどうなるだろうという母親がとても多い。こういう場でいろいろな人の姿を見て、こういう生き方や働く場所があると思えたら、希望を持って生きていけると思う。子供たちにとっても夢のあることだと思う。
- 掃除だけでなくいろいろな仕事、得意分野があると思うので、その得意分野で子供たちと関わっていただく仕事などもあったらいいと思う。

◆今後の取り組み

ときわスクエアへの要望を市長に提出することについて了承された。
事務局と就労支援部会で、ときわスクエアでの障害者就労に向けて取り組む。

(2) 第8期宇部市障害福祉計画及び第4期宇部市障害児福祉計画について（資料6）

■意見および質疑応答

特になし

3 その他

(1) 介護者の高齢化や急な入院・疾病等による緊急時の短期入所の受入について

(資料7-1、7-2)

■意見および質疑応答

委員) 当会でも、緊急ショートに関しては、区分がある方は利用できなかったことで、何のためにこういう制度があるのかよくわからないという意見が出ていた。それがすごく利用しやすくなったので、大変ありがたい。

当会には、宇部市だけでなく山陽小野田市の方もいるが、山陽小野田市では、ショートステイを利用していなかったら、サービスの決定を外してほしいと言われるらしい。

山陽小野田市に緊急ショートがあるかわからないが、ショートステイを利用したことがない人にとっても、ショートステイはお守りのように思っていることを、行政に知っていただきたい。

委員) 病院でも、急に普段面倒を見られているお母さんが入院したケースもあったので、こういう制度があるのはいいと思う。現在、どのくらいの部屋が確保できているか。

事務局) 当初は、5法人を予定していたが、現在の登録は2法人。想定よりも少ないが、今までの1床に比べると3障害すべてに対応できる状況である。空床を活用なので、もう少し増えるといいと思っている。

前回、協議に参加していただいた事業所に再度連絡したところ、前向きに検討していると返事をいただいているので、今後も事業所の拡大に向けて、周知していきたい。

委員) 4月以降、実際に運用があったか。

事務局) 1件相談があったが、その方は区分を持っていて、短期入所できる場所があったので、現在実績はない。もし、短期入所で受け入れが困難であれば、緊急ショートという話になったと思う。

(2) 宇部市こどもと大人の発達相談センターについて(資料8)

■意見および質疑応答

委員) センターに電話して、発達障害かどうかわからない親に医療機関を紹介してもらえるか。

事務局) 医療機関を単純に紹介するのではなく、連絡いただいたら予約をして、まずは相談員がしっかり話を聞くことを基本としている。

1時間の面談時間を設けて、その中でその方にあった支援が医療機関であれば紹介する。もしかしたら福祉サービスや学校に繋がるかもしれない。その方の課題を見つけて、いろいろな関係機関と連携して支援していきたいと考えている。

- 委員) 私は電話相談を受けることがあり、医療機関を紹介してほしいという要望がすごく多い。今すぐ紹介できるところがなく、半年後になるかもしれないとか、今すごく困っている状態で医療機関に繋がたい緊急の方もいるので、公立の相談場所なのでこの病院がいいとは言えないかもしれないけれども、紹介していただけたらいいと思う。
- 事務局) この病院がいいとは言えないので、子供さんに関しては、小児科かかりつけ医を基本にしようということで、相談に来られたときは、まず、かかりつけ医を聞いて、かかりつけ医とセンターが連携して支援していく。かかりつけ医との相談で、山大となればその時点で紹介に繋がるという連携を考えている。
- 大人もどこに行ったらいいか聞かれる方が多いが、診断してその先に何があるか面談でしっかり聞きとった上で、医療機関が必要であれば、いくつかの医療機関を紹介していく形になると思う。
- 相談があったケース等の支援者支援もしているので、今後は、情報共有しながら、一緒に支援できたらよいと思う。
- 委員) 母親グループの集まりに何か所か行ったときに、不安定になられている母親もおられるので、話すことで落ち着かれるところもある。母も子供も個人個人で違うので、子供から大人までの発達支援はすごくいいことと思う。地域が連携してやっていけばいい宇部市になると思う。
- 委員) 児童発達支援では、幼稚園や保育園と併用されている方が多く、その方々には年に1回は必ず幼稚園、保育園に出向くことにしている。保育園、幼稚園で気になる子供さんがたくさんいても、保護者に言うと受け入れていただけない場合や、退園される場合もあると聞いている。そうになると、先生も気づいていても伝えられないことがあるので、その辺の力添えをしていただけるといいと思う。
- 事務局) 今週から保育園巡回を開始した。気になる子がいるが、親の理解が得られないというケースがいくつかあった。
- 今後、保育園の先生と、保護者にどのようにしたら気づきを促されるか、どんな形ができるかを協議しながら支援していきたいと検討している。巡回でも発達の相談会に繋がったケースの実績がある。保育園、幼稚園の巡回訪問を年3回予定しているので、今後も、放課後等デイサービス、児童発達支援等と連携しながら進めていきたい。